

園長通信 No.1

ご入園おめでとうございます。

新入園児13名を迎え、令和4年度が始まりました。

幼稚園は、お友だちと仲良く手を取り合って楽しく過ごせる場所です。

今年度より園庭が広くなり、子ども達が思い切り走りまわられる広さとなりました。

さらに、九州初の大きな滑り台が付いた遊具を導入しました。

そして毎日、様々な教具を使って先生やお友達の助けを借りながら自分のペースで完成していく「お仕事」という楽しい時間があります。この他にも、体操教室・英会話教室・書き方教室・音楽教室など楽しい時間がいっぱいあります。

今年度も子ども達が毎日元気よく登園して楽しい時間を過ごせるよう努めます。

このカトリック垂水幼稚園は昭和29年、垂水市の幼児教育開設の要請を受け開園し、今年で創立68年目を迎えました。平成27年4月1日から幼保連携型認定こども園として再出発して8年目に入ります。ここ丸2年余り新型コロナウイルスに翻弄され我慢の毎日でしたが、可能な限り最大限の教育保育を提供しております。

ところで、今世界は予期せぬ出来事が多発しています。中でもこの1カ月余、毎晩TVには目を覆うような想像を絶する映像が流れています。理不尽なロシアによるウクライナへの破壊と虐殺を続ける侵略戦争です。日本の敗戦により終了した第二次世界大戦以降戦争のない世界構築のため国際連合が作られ平和な国際社会が出来上がったと思っていましたが、それは『砂上の楼閣』かもしれないという思いが大きく広がりました。また、新型コロナウイルスは終息どころか第7波が現実になりつつあり、地球温暖化による大規模な自然災害の多発と、これから生きるこの子たちの事を考えると暗澹たる気持ちになります。しかし、地獄絵の中で現実を過ごしているウクライナの人々が地下シェルターで過ごさざるを得ない何万という人々が耐え忍ぶ原動力は何かと問われ、人々が答えたのは『祈り続けたこと・強い信頼感のもと互いに助け合えたこと・強い祖国愛』と言っています。今私達に出来る事は限られていますが、子ども達と一緒に出来る事は、この式の初めに当たって神様が教えて下さった『主の祈り』を全員で唱える事から始めました。日本民族は宗教心がとてもあつい民族です。カトリックは一神教ですが、日本人は、太陽・山・川・海と山川草木に手を合わせ祈ります。日本に初めてキリスト教をもたらしたザビエルが鹿児島島の祇園の洲に第1歩を記したのは1549年、473年前です。鹿児島滞在中に手を合わせて祈る人々の姿を見たザビエルは、日本人の宗教心の厚さに感動した報告書をローマに度々送っています。左手の方の壁に大きな額が掛っています。『良い子の祈り』です。いつも喜んでいなさい・絶えず祈りなさい・どんなことにも感謝しなさい・この祈りをモットーに教育保育に邁進してまいります。

令和4年4月1日

園長 郡山 勇三郎